

平成18年度

歳入 82億4090万円

決

算

その他依存財源 5億9570万円

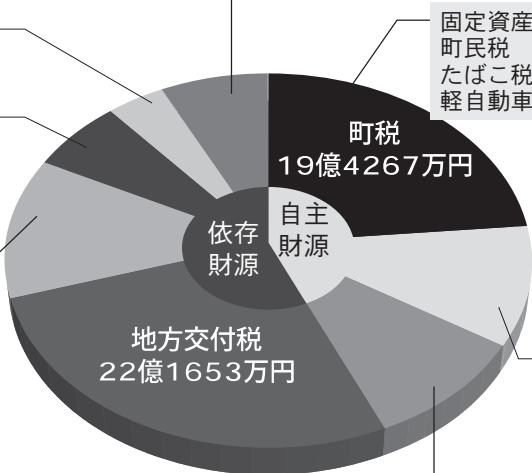
地方消費税交付金	1億6237万円
地方特例交付金	4976万円
自動車取得税交付金	5077万円
利子割交付金	965万円
交通安全対策特別交付金	325万円

地方譲与税	2億2335万円
ゴルフ場利用税交付金	6980万円
株式等譲渡所得割交付金	1213万円
配当割交付金	1462万円

県支出金
3億2457万円

国庫支出金
5億2126万円

町債
10億740万円



固定資産税	9億7230万円
町民税	7億9911万円
たばこ税	1億3246万円
軽自動車税	3880万円

その他自主財源 7億8357万円

使用料・手数料	1億6688万円
分担金・負担金	1億4184万円
財産収入	1億1038万円
寄付金	909万円

諸収入	1億5670万円
繰越金	1億9868万円

用語の説明(歳入)

- 町税** 町が賦課徴収する税金
- 線入金** おもに基金(町が蓄えている貯金)を取り崩したお金
- 地方交付税** 町の面積や人口など自治体の規模に応じて国から配分されるお金
- 町債** 大きな事業を行うために町が国などから借り入れるお金
- 国庫支出金・県支出金** 特定の事業の財源として国・県から交付されるお金

一般会計決算の概要

平成18年度の収入と支出の状況を示す決算がまとまりました。

みなさんに納めていただいた町税などがどのように使われたのか、どのような事業が行われたのかをお知らせします。

本町の会計は、一般会計と7つの特別会計に分かれています。平成18年度の一般会計と特別会計を合算すると、歳入145億6823万円、歳出141億1517万円となりました。

このうち、一般会計は歳入が82億4090万円、歳出が78億8202万円となり、歳入から歳出を差し引くと3億5880万円、平成19年度に実施する事業の財源3億20万円を除くと、実質的な収支は、5868万円の黒字となりました。

歳入の状況

町には、どのようなお金が入ってきたのか説明します。

自主財源

自主財源(町税など本町が徴収した収入)の合計は35億7544万円、歳入の約43%を占め、このうち町民税や固定資産税などの町税が19億4267万円、歳入の約24%を占めています。

このうち町民税は7億9911万円、個人と法人とに区分すると、個人が6億5967万円、法人が1億3944万円となりました。また、固定資産税は9億7230万円となりました。

線入金の8億4920万円は、おもに基金(町が蓄えている貯金)を取り崩した額であり、歳入の約11%を占めています。平成18年度末での基金残高は48億4816万円となり、平成17年度末と比較すると7億2784万円の減少となりました。

依存財源

依存財源(国や県が徴収して本町に分配された財源)の合計は46億6546万円、歳入の約57%を占めています。

このうち地方交付税(人口などに応じて交付される財源)は22億1653万円、歳入の約27%を占めています。

また、町債(町の借金)は、10億740万円、歳入の約12%を占めています。

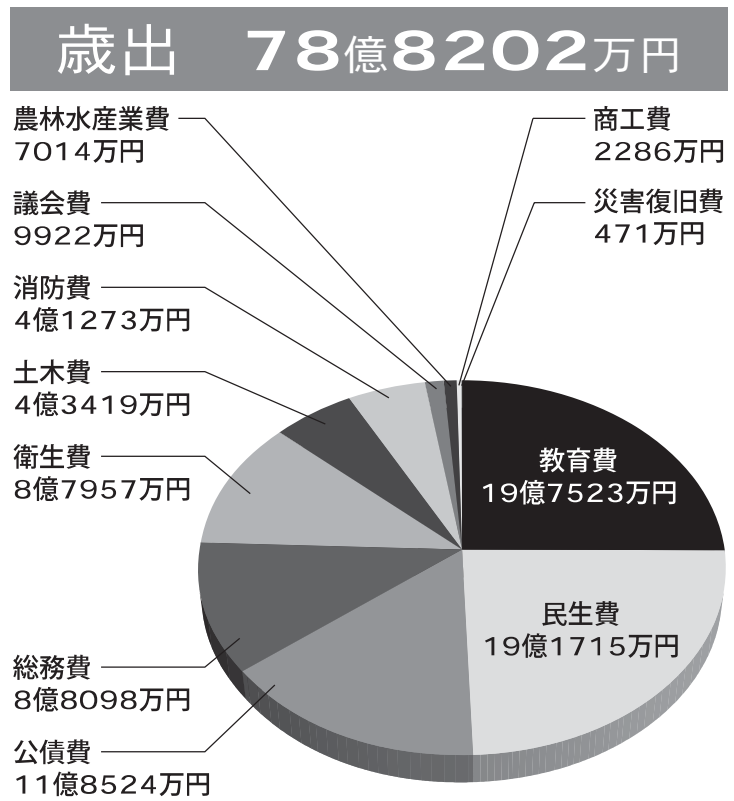
— 性質別内訳 —

町の歳出を、人件費、扶助費、物件費などのお金の使い方に応じて区分しています。

区 分	決 算 額
義務的経費	33億5198万円
人 件 費	14億9661万円
扶 助 費	6億7014万円
公 債 費	11億8523万円
投資的経費	16億 131万円
普通建設事業費	16億 131万円
その他の経費	29億2873万円
物 件 費	9億2004万円
繰 出 金	7億1456万円
補 助 費 等	11億8205万円
そ の 他	1億1208万円
合 計	78億8202万円

— 目的別内訳 —

町の歳出を、教育費、民生費、土木費、衛生費など目的に応じて区分しています。



歳出の状況

町はどのように税金などを使ったのかを、使い方(性質別)に応じて説明します。

扶助費

扶助費は、児童手当など法令に基づき支給されるもののほか医療費や心身障がい者支援事業の公費負担なども含まれます。

①障がい者支援事業

1億9520万円

②児童手当

1億2032万円

③私立保育所、町外保育所措置費

2億1539万円

④乳児医療費、母子医療費、老人医療費

7159万円

公債費

公債費は、国や金融機関などから借りたお金の返済金とその利息の支払いです。平成18年度末借入残額は78億4310万円となり、前年度末に比べ、232万円の増加となりました。

普通建設事業費

普通建設事業費は、道路や学校など公共施設の整備のための費用です。

①桜ヶ丘小学校施設整備事業

7億8766万円

②希望ヶ丘小学校大規模改修工事

4億1978万円

③中部21号線(緑橋付近)道路整備事業

6356万円

④旧第1小学校解体工事 3140万円

⑤道路新設改良事業 2662万円

⑥消防自動車等購入 2596万円

⑦大淀中学校施設整備事業(耐震診断、校舎改修等) 2333万円

⑧希望ヶ丘プレジャーium整備事業 2048万円

⑨鉾立コミュニティセンター整備事業 1694万円

⑩佐名伝・薬水地内灌漑水路整備事業 1454万円

繰出金は、特別会計への一般会計の負担分です。

①下水道事業特別会計 2億4000万円

②介護保険特別会計 1億6012万円

③老人保健特別会計 1億3454万円

④国民健康保険事業特別会計 1億4112万円

補助費等は、ごみ処理施設などの一部事務組合に対する負担金および町内の各種団体に補助するための費用などです。

①南和広域衛生組合負担金 3億4532万円

②中吉野広域消防組合負担金 3億3396万円

③大淀病院事業会計繰出金 1億7602万円

平成18年度

決

算

特別会計
水道事業会計
病院事業会計

平成18年度 特別会計	
住宅改修資金等貸付金 特別会計	歳入 8903万円 歳出 8867万円 差引残高36万円は、翌年度繰越金となります。
国民健康保険事業 特別会計	歳入 18億5836万円 歳出 18億1720万円 差引残高4117万円のうち財政調整基金へ2117万円を繰り入れたため、翌年度繰越金は2000万円となります。
老人保健特別会計	歳入 17億524万円 歳出 17億1399万円 不足額875万円は、18年度から繰上充用金で補填しました。
介護保険特別会計	歳入 11億8952万円 歳出 11億3859万円 差引残高5093万円のうち財政調整基金へ2839万円を繰り入れたため、翌年度繰越金は2254万円となります。
公園墓地事業 特別会計	歳入 1392万円 歳出 1388万円 差引残高4万円は、翌年度繰越金となります。
下水道事業 特別会計	歳入 14億6557万円 歳出 14億5527万円 差引残高1030万円は、翌年度の財源として繰り越しています。
建設残土公的処分地 維持管理事業特別会計	歳入 568万円 歳出 555万円 差引残高15万円は、翌年度繰越金となります。

水道事業会計

事業収益 3億2758万円 事業費用 2億7937万円
資本的収入 1億5510万円 資本的支出 2億5859万円

平成18年度末で、7948件(量水器取付件数)、2万611人に給水を行っています。

建設改良事業では、町道東部13・15号線配水管改良工事、下水道事業に伴う配水管移設工事等を施工しました。

今後も、おいしい水の安定供給に努めていきます。

病院事業会計

事業収益 26億4449万円 事業費用 27億9174万円
資本的収入 7391万円 資本的支出 1億3305万円

当年度の事業状況では、入院患者数4万6745人(1日平均128.1人)、外来患者数15万3170人(1日平均563.1人)となりました。

医師・看護師不足等、病院経営は厳しい状況が続いていますが、今後も、自治体病院としての役割を担い、地域医療の充実と医療サービスの向上に努めていきます。

